

40年以上の歴史持つ「新学部」

人間科学部スタート

宇都 榮子人間科学部長に聞く

4月1日から新設の人間科学部長に就任した宇都榮子教授に、人間科学部新設の意義、学生の在り方をお聞きした。

専修大学7番目の学部 総合的に学ぶ学部です。「守破離」の精神。型をとして、4月からスター 社会学科は現場に足を運 体得する「守」、身につけた人間科学部。心理 び、現象を自らが見て考 いたら型から出ていく 学と社会学の2学科を擁 徹底的に調べ分析す 「破」、さらに創造の世 し、人間を心と社会の両 するフィールドワークに重 界を作る「離」。その鍛 面から探究する。 点を置いていきます」

21世紀は、情報化、グ ずれも実証教育の重 「基本をしっかり身に ロハル化が進む一方、 視とともに、少人数教育 つけ、その上の段階に進 地球規模での環境破壊、 が行き届いている。必修 んでいただきたい。私た 異文化間の衝突、地域格 のゼミナールは、両学科 教員は助力を惜しみま 差などさまざまな問題を 各14人の教員に対し、各 せん」

批判精神と実証力を

杖道の「守破離」に学ぶ



だ。加えて 7年本学講師から助教 専用コンピ を経て88年教授。研究分 ユーターレ 野は社会福祉史。NHK ムや学習施 ラジオ第2放送「社会福 社セミナー」に出演。鹿 設も充実。 「旧来の 児島県出水市出身。62 権威や権力 歳。

法として心と社会を学 批判的な精神を持つこ び、柔軟な思考を身につ 地球の上どこにいて けることは時代になっ も、人生のどんな時にお ています」と語る。

新学部はゼロからの出 力』を身につけてほしい 発ではない。1966年 ですわね」と学生に呼び掛 に誕生した文学部人文学 ける。

科の心理学と社会文化両 杖道5段。128本の コースに始まる44年にわ 丸い樫の木の手を操り、 たる専門分野の研究と教 打ち、払い、突く。

育の実績の上に生まれ 日本武道館近くで教室 た。すでに各学科の特徴 の「生徒募集」の張り紙 が表れている。

「心理学は心理学の た。即入門したのが13 基礎から専門まで幅広 年前。 けいこを通じて新たな

みる全国でも数少ない、 教に出合った。それは



●心理学科一期生

フレッシュマン キャンプ

先輩学生が応援

「人と人」つながりの場に

新入生を対象に開催し ている心理学科(下斗米 淳学科長)のフレッシュ マンキャンプは、大学生 活にスムーズに溶け込め

るように、実行委員の先 輩学生たちが工夫を凝ら したプログラムが満載 だ。学生と教員がチーム を組んで解答するクイズ や立食パーティーなど、 緊張をほぐし、学生生活 上の相談や新たな仲間を つくる場として毎年活用 されている。夜も上級生 や教員と話し込む新入生 が多く見られ、大学や学 科への所属意識が高めら れている。

新しい学部となって初 開催の今年は4月17、18 の両日、伊勢原セミナー ハウスで新入生80人と実 行委員、学科の専任教員 全員が参加して行われ た。オープニングでは、 学科長の開会宣言の後、 日高義博理事長・学長か ら激励のビデオメッセー ジが披露された。

●社会学科一期生

歩く調査の楽しさを学ぶ

基礎ゼミ合同 授業と懇親会

▲ 浦戸諸島の菜の花畑を映し ながら講演する永野教授

人間科学部社会学科 (広田康生学科長)は、 新入生を歓迎する「基礎 ゼミナール合同授業・ク ラス合同懇親会」を5月 12日、生田キャンパスで 開いた。今年度の社会学 科一期生169人が参 加。社会学の重要な方法 であるフィールドワーク (現地調査)について学 び、教員や仲間たちの 交流を深めた。

文学部人文学科社会学 専攻だった昨までは、 現場への旅「宮城県松島 湾に浮かぶ浦戸諸島」を テーマに講演した。 リュックサック姿で現 れた大矢根教授は、「街 は、人々が生活する現場 歩き初めの一歩」とし を旅することと同じ」

▲ 学生たちを前に自己紹介する社会学科の教員

をテーマに講演した。 リュックサック姿で現 れた大矢根教授は、「街 は、人々が生活する現場 歩き初めの一歩」とし を旅することと同じ」

をテーマに講演した。 リュックサック姿で現 れた大矢根教授は、「街 は、人々が生活する現場 歩き初めの一歩」とし を旅することと同じ」



▲ 感想を話す左から成島さん、池田さん、実 行委員の高橋さん、松平さんと石金准教授

として参加した 専門分野から最も興味あ るものを見つけ出してほ 楽しみを下級生 にも伝えたいと 実行委員になっ たのは副委員長 を務めた高橋知 穂さん。「2年、 3年と続けて参 加することで、 先生方とのつな がりが深まりま した。」

は、横のつながりだけで はなく、卒業生や修了 生、退職された元教職 員、在学生に現スタッフ の、縦のつながりも強固 にする絶好の機会になる はず。心理学科は現 在まで一貫して、学生一 人ひとりの顔が見える学 科として少人数教育を貫 いてきましたので、これ までも学生同士や教員と のつながりは強いのです が、新学部になったこと を機に、さらに在校生だ けでなく卒業生との間に おいてもその絆をますます 確かなものにしていき たいと考えています。大 切な心理学科の宝である 多くの卒業生の参加を期 待しています」と下斗米 学科長は話している。 詳細は心理学科のホー ムページで。

「心理学」は人との つながりが持てる学問」 だと思ひ志望したという 成島知穂さんは、入部し たサークルの先輩2人 が、実行委員として下級 生たちを和ませようと奮 闘する姿を見て、より親 密さを感じたと言う。相 談できる頼もしい先輩が 身近にいて心強いので す。子どもを取り巻く 環境や非行問題などに興 味があるという池田紗苗 さんは、「自由時間に多 くの出会いがあり、キャ ンプ翌日に登校したとき に「こんなに仲間が増え たんだ」という安心感を 持ちました」とそれぞれ 話してくれた。

このキャンプは、17人 の実行委員をまとめた松 平周輔さん(4年次)が 入学した年に、親ばか会 としてスタート。「2年 次から実行委員を担当 し、ほとんどの学生と顔 なじみなのが自慢です。 協力して行う実験が多い 学科なので、早い時期に コミュニケーションを取 っておくことは学生生活 に周囲にいいと感じてほ りです。早く大学生活にな ると体験から話す。新入生 じて、心理学の幅広い

て、フィールドと話し始めた永野教授 ドワークで聞 は、菜の花が一面に広が るほど面白い。さらに現 地での丹念に丁寧な聞き取 りをするので予備知識 ではないが、事前の準備が かなり上がっている」と、 旅調査することの豊か さ、楽しさを語った。